

# 小豆「十育113号」

(農試 技術部・環境部・果南分場・果北分場)

## 1. 来歴

「小豆十育113号」は昭和48年に北海道十勝農業試験場において「十育85号」を母に、「清原春小豆」を父として人工交配を行ない、以後選抜固定を図ってきたものである。

昭和54年から当场において、ウイルス病抵抗性、生産力検定試験を行うとともに現地試験、栽培法等の試験を実施し、有望と認められた。昭和59年において雑種第12代である。

## 2. 特性の概要

### 1) 特性一覧

#### (1) 形態的特性

系統名 または品種名	主茎長	主茎節数	分枝数		葉の形状		花の形状		毛茸の多寡	毛茸の形	一莢粒数	胚珠数	莢の形状	莢の大きさ	種皮色	品質		
			上位葉	下位葉	花の色	熟透の色	長さ	幅										
十育113号	短	中	少	少	鈍	円	黄	福	長	広	少	鈍	少	少	円筒	小	濃赤	中
大館2号	短	中	中	中	円	円	黄	福	中	狭	少	鈍	多	多	円筒	大	赤	中
岩手納言	中	中	中	中	円	円	黄	福	長	広	少	鈍	多	多	円筒	大	濃赤	中

#### A. 長所

- (1) ウイルス病抵抗性である。
- (2) 早生種であり収量は「大館2号」に勝る。

#### (2) 生態的特性

系統名 または品種名	開花期	成熟期	抵抗性	
			脚状ウイルス病	ウイルス病
十育113号	早	早	中	極強
大館2号	早	早の晩	中の強	弱
岩手納言	晩	中の晩	中	弱

- (3) 晩播適応性が高く、果南部では麦刈跡での利用に適する。

#### B. 短所

早生種であるので早播きすると夏、高温時の登熟となり、粒色が濃赤色となり外観的品質が劣る。

## 3. 奨励品種に採用したい理由

岩手県における小豆作付面積はおよそ2,400haで、早生種の奨励品種として「大館2号」が栽培されている。しかし、小粒種であるため流通上の不利もあって、栽培面積は極めて少ない。

その他の在来種も作られているが低収で品質も劣るものが多く、良質で安定多収な早生、大粒品種が望まれている。また、中晩生種では「岩手大納言」「紅南部」が普及しているがウイルスに弱く、果南部での作付は伸びていない。「十育113号」はウイルス病抵抗性をもつため、ウイルスの多発条件下にある果南部でも罹病が極めて少なく、作付面積の拡大が可能である。

「十育113号」は「大館2号」「岩手大納言」に比べ多収であり、早生・大粒でウイルス病にも強いので、「大館2号」にかえて奨励品種に編入したい。

## 4. 適応地帯

- 1) 普及見込地帯 岩手県下一円
- 2) 普及見込面積 1000ha (昭65年度)

## 5. 栽培上の留意点

- 1) 早播きは品質低下のおそれがあるのでやや遅播きとする。
  - (1) 果南地方は生育旺盛なので播種期は6月下旬とする。
  - (2) 果中央部の播種期は6月上旬へ中旬、果北は6月上旬を適期とする。
- 2) 肥沃土壌では蔓化倒伏することがあるので、栽植密度は10a当り8000〜12000株程度とする。

る。

- 3) 窒素の標準施用量は4 kg/10aとするが、肥沃度によって増減する。
- 4) フキノメイガの発生は品質劣化となるので防除を徹底する。
- 5) 晩播の場合は十分乾燥、後熟後脱穀する。
- 6) アブラムシの防除、種子更新は従来どおり留意すること。

6. 試験成績

1) 農試本場における生産力検定試験

系統 または 品種	試験 年次	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	倒 伏 程 度	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本)	莢 数 (%)	当 刈 量		同 左 標 比 (%)	百 粒 重 (g)	粒 色	品 質
								総 重	子 実 重				
十 青 113 号	57	7.20	9.6	無	29	2.0	389	44.4	24.2	114	16.6	赤	中中
	58	30	27	無	34	0.5	360	37.2	18.3	141	16.4	赤	中中
	59	16	8	無	36	0.6	373	43.7	22.4	185	12.6	赤	中上
	平均	7.23	9.17	無	33	1.0	381	41.8	21.6	139	15.2	赤	中上
(標) 大 館 2 号	57	7.31	9.18	無	56	4.6	618	41.3	21.3	100	10.0	赤	中中
	58	8.1	21	無	36	0.3	411	26.0	13.0	100	11.6	赤	中上
	59	7.19	10	無	40	0.2	256	35.4	12.1	100	8.2	赤	中上
	平均	7.26	9.16	無	44	1.7	428	34.2	15.5	100	9.9	赤	中上
(比) 岩 手 大 納 高	57	7.31	9.16	少	56	2.4	304	46.2	26.8	126	17.4	赤	中中
	58	8.6	25	微	49	1.4	299	28.2	15.7	121	17.2	赤	中上
	59	7.24	15	中	55	1.6	286	43.6	20.0	165	11.3	赤	中上
	平均	7.31	9.20	少	53	1.8	296	39.3	20.8	134	15.3	赤	中上
(比) 紅 南 部	57	8.5	9.23	少	74	2.7	514	44.6	21.0	99	11.0	赤	中上
	58	12	10.6	微少	52	2.1	433	42.8	21.1	162	11.4	赤	上下
	59	7.24	5	中	71	3.2	337	60.7	24.7	204	13.7	赤	中上
	平均	8.3	9.29	少	66	2.7	428	49.4	22.3	144	12.0	赤	中上

(1) 播種期

57年 - 5月19日  
58年 - 5月26日  
59年 - 5月26日

(2) 施肥量(成分kg/a)

N = 0.4 P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> = 1.7  
K<sub>2</sub>O = 1.0

(3) 栽植密度

大館2号、十青113号  
畦幅60cm x 株間15cm 2本立  
(2222本/a)  
岩手大納高、紅南部  
畦幅60cm x 株間12cm 1本立  
(1389本/a)

2) 県南分場での麦刈り跡晩播試験(昭57年)

播 種 期 (月日)	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	主 茎 長 (cm)	分 枝 数 (本)	莢 数 (%)	倒 伏	ウ ィ ル ス	全 重 (kg/a)	子 実 重 (kg/a)	百 粒 重 (g)	粒 色	品 質
7.6	8.16	10.18	55	2.1	17.9	中	微	55.6	28.1	22.7	赤	中上
7.22	8.27	未達	55	1.9	15.1	多	無	48.6	23.1	22.6	淡赤	中中

(1) 栽植密度

畦幅60cm x 株間8cm 1本立

(2) 施肥量(成分kg/a)

N = 0.2, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> = 1.0, K<sub>2</sub>O = 1.0

3) ウィルス病特性検定試験(環境部、病害虫科)

系統名 または 品種名	年次	発病株率(%)						発病度						判定	
		54	55	56	57	58	59	54	55	56	57	58	59		
十青113号		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	極強弱
大館2号		54.2	58.6	30.6				21.5	25.8	10.6					
岩手大納高		55.8	49.8	23.3	61.6	7.0	30.7	22.5	23.0	9.7	19.2	2.0	9.3		
紅南部		57.5	49.3	17.0	88.4	12.4	74.6	22.9	17.5	6.4	24.5	3.9	24.5		

$$\text{発病度} = \frac{\sum(\text{各指数} \times \text{各指数に属する株数})}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$